



コミュニケーションを 大切にして 無垢の木のように 長く愛される空間を

株式会社アンブインテリアデザイン
代表取締役

小早川 梓さん



株式会社アンブインテリアデザイン
八幡山1-9-17 TEL: 03-6379-8675
<https://anp-interior.com/>



椅子づくりへの憧れが開いた ものづくりへの道

八幡山八幡社を望む閑静な住宅街に佇む、天然木のエントランスが印象的なアンブインテリアデザイン。オーダー家具やリノベーションを中心に、住宅や店舗の内装も手がける会社です。代表取締役の小早川梓さんがこの道に進んだ原点は、女子美術大学でインテリアデザインを学んでいた頃に遡ります。「課題で椅子の10分の1の模型をつくることになったんです。並行して名だたる椅子のデザイナーについて学ぶうちに興味が湧き、自分が作った模型を実物にしたいと思立ちました」。大学3年時に訪ねたのが世田谷区にあった旭川家具の店。「最初に模型を持っていくと、『これが現実の椅子の形になるわけがない。構造を一から勉強し直さなくちゃだめだ』と言われて。翌日からアルバイトとして毎日通いました」。そこで家具の設計や構造を学び、ものづくりの難しさと奥深さを知ります。「アルバイトの集大成として、模型を無垢材で形にしてもらいました。社長や職人さんの意見を聞き、当初とは全く違う形の椅子になったのですが、それでも数年後には壊れてしまったんです。やっぱり椅子のデザインって難しい。いつかちゃんとしたオリジナルチェアを作りたいと思いました」



無垢材への思いを軸に築いた 長く愛される仕事

卒業後はアルバイト先の店にそのまま就職。結婚・出産で離れた時期を経て、パートで復職し、仕事と子育てを両立させるため独立を決意します。「二級建築士やインテリアプランナーの資格を取るほか、東京都の起業相談などにも通い、5年がかりで準備しました」。東京都の創業補助金や融資も活用し、2013年に個人事業としてスタート。2015年には八幡山にショールーム兼事務所を開きました。

ものづくりの軸にあるのは、流行に左右されず長く使えるもの。旭川家具との出会いを原点に、無垢材の魅力を大切にしながら、時を超えて愛される家具や空間を目指しています。創業時



▲2023年 グッドデザイン賞を受賞した「ANPチェアII」

には初めてオリジナルチェアを制作。そこから試行錯誤を重ねて発表した無垢材の椅子「ANPチェアII」は2023年グッドデザイン賞を受賞。耐久性を高めながら、無垢材で柔らかなアール形状を実現し、安心感のある座り心地と美しさが評価されました。

また、仕事をする上で、小早川さんが重視しているのはお客様へのヒアリングです。「お話を細かに聞くのはもちろんですが、住まいの雰囲気や暮らし方、好みなど、言葉として語られるご希望以外のことも読み取って、その人に合った空間を提案しています」。現在取り組んでいるのは神奈川県のお老舗、陣屋旅館の改装。ご依頼主はもちろん、宿泊客からも好評を得ています。

コミュニケーションが職場環境や 仕事のクオリティアップの鍵

アンブインテリアデザインでは、時短勤務やリモートワークを取り入れるなど、社員の働き方にも柔軟に向き合っています。そのきっかけの一つがコロナ禍でした。

2018年に法人化したのを機に、2019年には正社員4名を採用しました。ところがその直後にコロナ禍に見舞われ、経営が困難になる中、社員との関係性も悪化。そこから、働き方や社内コミュニケーションのあり方を見直したそうです。以来、年に3~4回は社員と面談して状況や希望を聞くほか、昨年度は社員旅行も実施しています。「退職率が大きく下がりましたね。社員が定着し、成長してくれたことで、仕事の質や生産性が上がりました。何より、私の気持ちが楽になりましたね。前は全部自分でやらないと思っていたのですが、互いの信頼度が増して、社員それぞれに仕事を任せられるようになったんです」。その成果は売上にも表れているといます。

今後は住宅に加え、旅館やホテルの改修にもさらに力を入れていく考えです。

無垢の木のようにやさしく、長く愛される空間をつくりたい。その思いは、今、社員一人ひとりの思いとなり、質の高いものづくりへの大きな原動力となっています。

